

南相馬市物産展開催、そして復興の新たなステップへ

29日、杉並区役所玄関前では、南相馬市の特産品を集めた物産展が開催されました。南相馬市は、東日本大震災とその後の福島第一原子力発電所の事故から6年が経過し、除染活動や施設農業への転換などを進め、確実に復興の道を歩んでいます。会場には、南相馬市の桜井市長も駆けつけ、物産品のPRとともに、震災からの復興を更に一步を踏み出す、地域おこし協力隊への応募も呼びかけました。

福島県南相馬市は、杉並区と災害協定を結ぶ交流自治体で、一千年以上の歴史を持つ「相馬野馬追」が有名で、農業と漁業が盛んなまちです。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災の津波がまちを襲い、多くの人命を奪われ、家屋の倒壊や農地の冠水など大きな被害を受けました。また、その後の福島第一原子力発電所の事故で、南相馬市は市域の一部が立ち入り禁止地区に指定され、農産物や海産物の出荷規制を受けました。

その大震災から6年が経過しました。この間、国内外から多くの支援を受け、南相馬市をはじめ、被災地の市民がふるさとの復興・再生のため立ち上がり、一步一步、その成果を挙げています。南相馬市でも、安全安心への万全の対策として、ハウス栽培など施設農業への転換で、トマトやキュウリなどの栽培がスタートしています。

29日、杉並区役所での物産展には、トマトやブロッコリー、タマネギなどの野菜や南相馬市のソウルフード「よつわりパン」、のりなどの水産加工品が並びました。また、南相馬市の桜井勝延市長も駆けつけ、田中区長とともに買い物客に商品を笑顔でPRしていました。



南相馬市では、震災からの復興、そして若者世代が夢を描けるまちの実現に向けた新たな一步として、「地域おこし協力隊」を募集中です。協力隊の主な業務内容は、市内に点在する農家民宿の魅力を内外に伝えること。そして、一時は全域避難で無人になった小高区の地域コミュニティの再生です。この地域は、住民が震災前の4分の1になってしまっていて、かつての活気を取り戻す取り組みです。こうした取り組みには、若者の力と知恵が必要不可欠で、いずれも3年間の期限ですが、地域の仲間、地域のリーダーになるような人材を募集しています。詳しくは、南相馬市復興企画部被災者支援・定住推進課（0244-24-5269）へお問い合わせください。